

若者たちよ、旅に出よう！

大人たちの仕事

ムリを「デキル」に。

地方と都市にはそれぞれに異なる魅力がありますが、分野によって格差も存在します。

例えば有名作家の美術展、コンサート、国際的なスポーツマッチは圧倒的に都市で開催されます。こうした課題を少しでも解決したい。そんな想いから、今年度、市制 70 周年を機に行橋市は動きます。

例えば、お笑い芸人でアーティストの野性爆弾くっきー！さんによる展覧会 8 月に開催。(P4 ページ) 秋には世界的に活躍したスポーツ選手を招いての教室も実施予定です。また、中高生を対象にしたマナーリテラシー講座も検討中。こうした取り組みを民間事業者とコラボし、市制 71 年目からも持続的に実施したいと考えています。

「行橋ではムリ」ではなく、「行橋だからデキル」に変える。出会いや経験を次世代に提供し続け、若者たちを応援する。そんな大人、そんな行橋市でありたいと思っています。

今月号では普段中々聴くことができない若きインフルエンサーたちの想いを特集しました。

それでは、YUKUHASHI LIFE 7月号、始まります！

複数の「ものさし」。

「遅くとも 20 代前半までに、1 度は行橋を飛び出してほしい」

これは私が若者の前でよく使う言葉で、私自身の実体験からくるものです。

人間は環境の生き物。感性が豊かで敏感な時にこそ「外」を見て、世界が広く多様であることを知ってほしい。いくら周りの大人たちが「国際社会だ」「多様性の時代だ」と言っても「百聞は一見にしかず」。実体験に勝るものはないのです。

「外」に出ると世界観が変わります。視野が広がり、思考も柔軟になります。自分や自国、我がまちの見え方にも変化が生まれ、より客観視できるようになります。私は、こうした技術やマインドの獲得を「複数の“ものさし”を身につける」と表現しています。

私たちは日々の中で、時には高い壁にぶつかり、固定概念からの脱却や、変化への対応を強いられることがあります。そんな人生の岐路に立った時、この“ものさし”が必ず役に立つのです。

「かわいい子には旅をさせよ」。旅とは多様な経験のこと。だからこそ、声を大にして言いたい。「若者たちよ、旅に出よう！」

行橋市長 工藤 政宏

